

2024 11/10日 10:00~14:15 藤島体育館

つや姫の里の収穫祭

ふじしま秋まつり

7:30~14:00 どもども推進会
14:00~開催
つや姫10kg
3名様当たる!

第3回鶴岡ごはん日本一
一般審査員100名による決勝大会12:15~
一般審査員先着100名様募集中!
申込はこちらまで→0235-64-5803

JA庄内たがわ藤島支所秋まつり
つや姫や甘き丸おにぎりセット販売
手巻販売
収穫感謝ふるまい贈つき
販売コーナー
グラウンドゴルフ大会

第52回 藤島芸術文化祭
10/25(金)~27(日)
藤島芸術文化協会
11/4(月)

第35回 ぶじしま音楽祭
11/2(土)
藤島地区地域活動センター

日本書文化大祭
職工作品展示
裁縫づくり体験

主催 ふじしま秋まつり実行委員会 お問合せ:0235(64)2229 (ふじしま観光協会内)
共催 ふじしま観光協会・JA庄内たがわ藤島支所・鶴岡市・出羽商工会藤島支部・藤島芸術文化協会・JA庄内たがわ藤島支所職工芸部会・鶴岡ごはん日本一実行委員会・ふじしま文化フェスティバル実行委員会

藤島LC結成50周年記念式典 記念アクティビティ3事業

藤島ライオンズクラブ(神林守会長、会員36人)の結成50周年記念式典が3日、出羽商工会藤島支所で開催されました。



(神林守会長)

式典では、佐藤吉一実行委員長から、記念アクティビティ3事業が発表されました。

一つは、「Hisu花」へのイルミネーション寄贈

2つは、11月17日に藤島体育館で行われる全日本プロレス藤島大会の開催

3つは、12月29日に県立庄内農業高校の体育館で開催される「藤島剣道祭」です。

式典では、永年在籍者感謝状が、朝比奈友明氏と大沼富英雄氏に贈られました。



(朝比奈友明氏)

記念誌も発刊され、表紙には朝比奈氏提供の藤棚、裏表紙には出羽国跡の平形遺跡、藤島城址、郡役所の写真が掲載され、藤島がこの地域の中心地であった歴史を象徴しています。



(藤島イルミネーション点灯式に出演・こりす保育園の園児、3日)

ふるさと賛歌

鈴木重雄(八色木)

村の思い出。豊女ばあさんのこと

豊女ばあさんは、鈴木伝五右エ門家のお人である。

道路沿いに小川が流れ、橋を渡ると一間位の間口が店で、そこでせんべいを焼いていた。

粳米を20分位水に浸し、乾燥させて、石臼で粉にする。

蒸して餅にし、薄く延ばして、丸い型に切り抜き、1枚1枚天日に乾かす。

専用の鋏にはさみ、七輪の上で1枚ずつ焼いて、膨れてくると鍋の蓋で平らに押さえる。

そうすると、団扇のような薄く丸いせんべいが出来上がる。

せんべいと言わず、お茶菓子と言っていた。子どもの離乳食にも使われ、芳ばしい香りを嗅ぎながら、子どもたちは焼き上がるのを待っていた。

豊女ばあさんは、このせんべい作りは横山で習ったそうである。村人たちは、お茶菓子の屋と呼んでいた。豊女ばあさんは、働

き者で、針仕事はもちろん、手先も器用で、読書好きな人で、人の面倒見も良く、みんなに好かれていた。

小学校の同級会も90歳まで続けたと言って、米寿の同級会3人の写真を見せてくれた。

藤島上町の生まれで、小学校を卒業すると、同じ町の西川速水家(名譽町民)に、子守奉公に出た。

奉公先の奥様から裁縫を習い、本も読ませてもらった。お陰で他人のものまで縫えたり、本も好きになったと感謝していた。

山形県読売会が毎月10日に発行する『ヨミウリウエイ』14号(2001年1月10日)の1面に、鈴木豊女さん(104歳)が掲載された。

「19・20・21世紀と3世紀をまたぎ、100歳を越えて今もなお、闊達に豊かな日々を積み重ねる。」と見出しにあった。

苦勞を苦としない豊女ばあさんは、106歳で天寿を全うした。



自室の本棚の前で(ヨミウリウエイ2001/1/10)

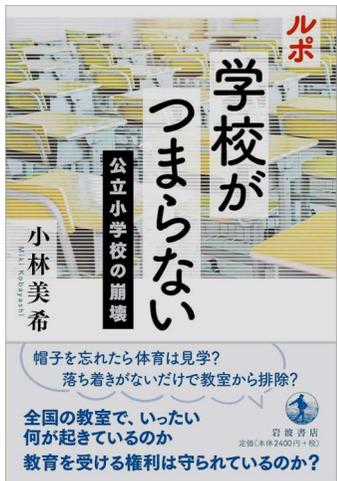
小中一貫校(義務教育学校)への疑問⑥

疑問12 小・中両方の免許を持つ教師を確保できますか？

義務教育学校では、教員の免許は、小・中の両方を併有するのが原則とされ、当分の間は経過措置として、どちらかを持っていてもよいとされています。小・中では、教員の免許が違います。子どもの発達段階の

疑問13 決定する前に、もっと調べべきではありませんか？

岩波書店から最新刊『ルポ 学校がつまらな公立小学校の崩壊』が、11月9日出版されました。その第3章で、「小中一貫校化の弊害」が取



岩波書店 11月9日発行 220頁 2,640円

り上げられています。小学校の最高学年が4年生とされ、5年生以降は「早期教育」が実施される。小学校教員が中学ス

ず、種籾選定、除草、堆肥、駆虫のことなど農業の全てについて教えた。それでも農民は信ぜず、お互い激しい議論をして言うには、南国の農法を北の風土の違う土地でもしようとする

いと思え。耳もかさず一層励んだ。西南諸国は、土地が狭く人が多く、わずかの土地も耕作しなければならぬ。一年に二度耕作しても食に困る状況だ。農民は悩み苦心し、さまざま考え、栽培法や理諭を考えた。東北はそうではない。土地は広く人は少なく、ゆったりと耕作しても一年の食を獲ることが

東田川史跡物語 稲作改良碑⑫ 現代文1 青山 崇

羽前国東田川郡は、東は月山、西南は赤川を越える一定の地域、北は最上川で限られた地域である。広々とした平野に、

水田はおよそ一万四千余町。土地は肥えて農民は豊かである。昔から農法は水田にのみ依存し、他の耕作などは考えなかった。しかし百余年の間に、一つか二つはあったかもしれない。乾田は収穫が極めて多いが、経費が

収穫を超えることもある。水が乾かなければ三年でもともどる。しかし、これが利益になることを知る農民は少ない。

明治十七年(一八八四)、県令折田平内氏が県内を廻り、村の村長や豪農を集め自分の考えを話した。馬耕は費用を省く方法である。当時馬耕が最も盛んだったのは福岡県で、ここに及ぶ県はない。それで郡毎に篤農の者二人を選んで派遣し学ばせようと計画したが、

応募する農民はなく、計画は廃止になった。明治二十四年東田川郡長相良守典氏は、この最初の計画を引継ぐ

年国の費用が多くなつたが、米の利益は増えない。今日、馬耕で乾田の利益に頼らなければ、百年後の民はどうなるのか。と諸村長や豪農と相談し、稲作教師を役所で招くことにした。

農商務省にお願いし、島野嘉作君を稲作改良教師に任命した。彼は早速、郡を三区に分け、区に実習田をつくり、子弟に教え、自らも犁を押し馬を御し、顔を泥だらけにし、背中を露わにして寒暑も辞さ



多層民家は

7.5だ。紅葉中探し数えた。滝七つ。これに、滝は夏の季語だけどなくと応えた女性、俳句で最高賞を何度も頂いている人です。だからこれ「句」

天気皆さん元気。この時間の滝。陽がさしていないからか、紅葉がハッキリしないかと話していたら、地元「田麦」の名前の人だったヘルメットのおじさんが話してくれた。紅葉は例年より一週間以上の遅れとの事。新しい道が出来てこつちから車がなくなくなってから、こんないい滝がある事は若い人は知らないだろうとの事でした。

▲今日は、医療生協やまがた藤島運営委員会が計画した健康ウォーキングで、朝日は六十里越街道にある「七つ滝とあの住宅」を見に来ていたのです。9時半で藤島体育館を出て、信号機のある所の産直でトイレ休憩をとると、もう土産を買い始めた人も。朝取りの物は帰りには無くなっていくカモ、に納得。

▲俺は、名前は知っていたが、初めて見たんだ。かの俳句の女性は、俳句の仲間と何回も来ているとの事。彼女の他は皆初めて、かな。